

横浜市福祉サービス第三者評価 評価結果総括表

事業所名	もみじ保育園	
報告書作成日	2007年7月6日	(評価に要した期間5か月)
評価機関	社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 横浜生活あんしんセンター	

評価方法

自己評価方法 (実施期間:2007年2月上旬 ~2007年3月14日)	非常勤を含む全職員が評価票を使い自己評価に取り組んだ。園長をはじめ7名の職員からなるプロジェクトを立ち上げ、プロジェクトが中心になり、集約した。
評価調査員による評価方法 (実施日:2007年5月23日)	調査員2名による現地調査、書類確認、面接ヒアリング調査(園長、チーフ、保育士、栄養士など)を行った。また、職員(新人、中堅、非常勤)にも1対1のヒアリングを行った。
利用者家族アンケート実施方法 (実施期間:2007年2月中旬 ~2007年3月6日)	全園児136名に対する保護者112家族(世帯)を対象とし、事前に園長と評価機関の連名でアンケート依頼文を連絡帳に挟み込み、園から手渡し、約2週間の回答期間を設け、匿名で直接評価機関に返送してもらった。
利用者本人調査方法 (実施日:2007年4月25日)	全園児136名のうち、予め園側にリストアップを依頼した中から10名(園児の約7.4%)を対象に、評価調査員2名が保育観察(1~4歳児4名)、本人聞き取り調査(5~6歳児6名)を行った。

評価結果についての講評

〔施設の特徴〕

もみじ保育園は昭和 51 年に無認可保育園としてスタートし、昭和 53 年に社会福祉法人博愛福祉会を設立、昭和 54 年に開園した保育園です。

さらに、その後、待機児童解消策として平成 10 年にもみじ第二保育園を、緊急保育計画の一環として平成 13 年にたまプラーザもみじ保育園を開園、そして、平成 16 年に横浜市立藤が丘小学校内にもみじ保育園分園として、藤が丘もみじ保育センターを開園しました。

もみじ保育園は東急田園都市線青葉台駅から徒歩 15 分ほどの閑静な住宅街にあります。近隣には桂台公園をはじめ、桜台公園など多くの公園があり、緑豊かな環境です。

社会福祉法人博愛福祉会の基本理念である「いのちのリレーをサポートする」は、一生涯を、たくましく、健康に、明るく生き抜く為の「基本的生活習慣と知恵を身につけさせる」ことを基本としています。さらに、基本方針として、「あいさつできる子 元気な子(規律) なんでも食べる子 じょうぶな子(食育) みんな仲良し やさしい子(人間関係)」「生きていく為に必要な知恵(基本的生活習慣)」を教えることとしています。

生活のリズムを作ること(寝る、食べる、排泄)を大切にしながら、たくさんの人との関わりを持ち、より多くの経験をすることにより豊かな人間形成をし、子ども達のコミュニケーション能力を高めるための外部講師による特別活動(体操、音楽、スイミング、英語)などを取り入れています。

〔特に優れていると思われる点〕

理念の実現に向けたきめ細やかな保育の実践

法人の基本理念を職員に浸透させる取り組みとして園では採用内定者研修会で法人の理念、基本方針について時間をかけて講義し、採用後も定期的な職員会議や研修の場で説明しています。日々の保育においても、指導計画立案時や行事では理念や基本方針に基づく計画となるよう園長や主任が指導しチーフ会議等でも再確認しています。

「あいさつできる子 げんきな子(規律)」に向けて、「年齢別基本的しつけ到達目標」を定め、指導計画を作成しては個々の発達状況に合わせて評価し、職員会議等で共有化しています。自ら守る力(生きる力)を身に付けるための「早寝、早起き、朝ご飯」を提唱し、保育士は歌等をうまく取り入れ一日の生活の流れを作り、大いに褒めることで、よい習慣が身につくよう促しています。子どもたちは、朝の挨拶や給食時に手を合わせ感謝することなどを、人間関係構築のための礼節として身に付けています。また、月曜日には子どもたちが進んで登園できる様に「自由保育」を設定し、自発性を育むと共に遊びこめる時間を確保し、設定保育や特別活動を効果的に取り入れています。

「なんでも食べる子 じょうぶな子(食育)」では、工夫の凝らされたオリジナル食器を作り、季節を感じる旬の国産食材、手作りおやつや厳選された 100%ジュースの提供、水分補給としていつでも飲めるお茶の用意など、安全で安心な給食を提供するため様々な工夫をしています。子どもには食事のマナーや食べ物をよく噛むこと、親への感謝の言葉など保育士自らが手本となって習慣づける指導をしながら「食育」を保育の一環としています。また、アレルギー疾患のある子どもへの代替食も研究工夫し、それらを保護者へも提案・指導するなど、個々の子どもに合わせたきめ細やかな対応をしています。

「みんな仲良し やさしい子(人間関係)」では、豊かな人間形成と子どもたちのコミュニケーション能力の向上のために、外部の専門講師を呼び特別活動「音楽=リトミック」「英語で遊ぶ」「体力づくり体操」「スイミング教室」などを導入し、講師と保育士が協力して、園の理念・保育目標を踏まえた年間計画をたて、それぞれの到達目標を定めています。

乳児でも、友達と関わろうとする事やしてはいけない事を分かりやすい言葉や動作で示し、幼児に

はお互いの言葉使いやケンカ時の子ども同士の仲直り、遊びの中での社会のルールを教え、自分で考えさせるような声かけをしています。その際には必ず子どもをひざに乗せ、抱きあげるなどして距離を縮め、スキンシップを図りながら語りかけるように配慮しています。

将来を見据えた人材育成への取り組み

職員の採用は法人で一括して行っており、入職時には、職員・非常勤の区別なく「新入職員研修」を実施し、子どもの手本となるべく社会人としてのマナーや法人の理念・基本方針について時間をかけて講義しています。新入職員には1年間指導係りが、指導係りにはサポート係りが付き、さらにスーパーバイザーとして園長の下にチーフ、副チーフ、副チーフ補佐と段階的に職務が明確に分担され、それぞれの役割を担っています。

毎年法人内研修として4園合同で宿泊研修を行っており、非常勤職員は都合に合わせて日帰りでも参加できます。法人の理念に沿った保育の確認や保育士の専門性を深める研修などが行われると共に職員同士のコミュニケーションも図っています。

保育士は日々の外部講師による特別活動の中で、指導補助をしながら現場研修としており、さらに専門講師による保育士向け「体操指導法」などの研修が実施された後に、子どもの小さなケガが減少したという報告があります。

平成18年度から青葉区で発足した第一回公立・私立保育園合同保育研修会では、他園に先駆けて保育士2名が「運動会の実践報告」と題して報告発表の場に立ち、保育士の資質向上を目指した取り組みのモデルとしての役割も果たしています。

半期ごとに、全職員が「職務に関する申告書」を提出し、自分の仕事の評価と見直しをしています。これを基に園長は一人ひとりの経験や能力、適性に合った役割を与え、各種研修計画を進め、来期の人員配置の指標としています。さらに職員一人ひとりの希望や家庭環境にも考慮し、勤務時間の短縮や転職・復職への相談など、長期的な人材育成のための労務的配慮もしています。

子どもにとって大切な環境づくりとしての家族支援

園では保護者が安心して育児ができるための支援として、24時間健康ダイヤルの設置をはじめ看護師の配置、平熱表等の作成、ケガ時の対応マニュアルなどの整備、「なんでも相談」の受付、関係機関への連携体制など、子どもの健康を守る医療の援助体制を整えています。

子どもの命を守る取り組みとして、保育士への「予知・予測」の意識付け、想定される危険箇所を検討し詳細に記した避難経路図や日ごろから遊びの中で指導するスロープ使用などの訓練、応急手当普及員指導の資格を持つ職員による「救急対応強化研修」の実施、毎日の食事に気遣った安心安全な食材とオリジナル食器の使用など家族にとって安心な子どもの環境づくりがなされています。

園では登降園時の子どもの視診や触診だけでなく、保護者の声のトーンにも注意を払っています。また、3歳児以上の家庭への連絡には、シールノート（出席ノート）の外に「連絡票」の統一した書式を活用して、子どもの成長の様子や怪我時の連絡など、保育士の気づいた小さな事柄まで伝えていきます。また「連絡票」の複写を記録として集積しています。

日ごろ多忙な保護者にはできる限り子どもと関わる時間を多く持ってもらいたいと考え、ちょっとしたふれあいの時間を作り出すための手助けをするほか、親子遠足、生活発表会などの行事に積極的に親子参加を促し、お泊り保育などでは子どもとの関わり方を指導しています。また、年に2回行われる保育参観では、カーテンやポスターを活用して覗き穴を作り、園でのありのままの子どもの様子が見られるように工夫しています。

アレルギー疾患のある子どもがいる場合、保護者と知識や情報を共有して食材を除去するだけでなく、例えば米粉と水だけで焼くパンの試作を繰り返し替えては保護者に味わってもらい、代替食のレシピを教えるなどの提案をしています。

(特に工夫や改善などを期待したい点)

さらなる積極的な地域子育て支援の充実を

園では地域子育て支援サービスとして、月2回の園庭開放、年3回の交流保育(園内探検、園庭遊び、親子ふれあいまつりなど)、一時保育を行っています。また、区の事業にもみじ保育園が共催し、美しが丘地域ケアプラザ(保育園から5駅ほど離れた地域)での子育て講座「もみじのおてて」を開催しています。「もみじのおてて」では、リトミックあそび、親子体操、離乳食講座、育児相談などが実施され、好評を得ています。

地域住民への育児相談は、電話による相談を行ったり、園庭開放のときにも相談を受けることはありますが、定期的な育児相談を行ったり、園で、地域近隣に向けた子育てに関する講習会を行うまでには至っていないことが惜しまれます。地域の中で子育てに不安を抱えたり、孤立している保護者も少なからずいるものと思われます。今後、さらに地域近隣への子育て支援も推進するため、現在、園で行われている地域子育て支援サービスについて、「会報」を活用するなどのさらなる広報やニーズの掘り起こしを検討してみたいかがでしょうか。園に定期的に訪問をしている、専門カウンセラーの活用も1つの方法と考えられます。園の長い保育経験を活かし、より園の専門性を地域にも広く還元していくことを期待します。

より保護者との協力関係の構築を

園では「なんでも相談」を受け付けており、園に対する苦情や意見・要望までなんでも相談することができたり、行事ごとのアンケートや保護者懇談会を実施するなど、保護者個々の意向を汲み取るしくみはできています。しかし、保護者会の組織化については、以前、保護者にアンケートをとり、保護者会発足の意向を諮りましたが、保護者から「時間が無い」「負担が少ないほうが良い」などの理由で組織化に対する要望は低く、園側も「できる限り保護者が子どもと関わる時間を持ってほしい」という方針から、現在は保護者会組織は作られていません。


しかし、家族アンケートでは「不満や要望を気軽に言えるか」や「保護者会懇談会などの話し合いの機会」「子どもの様子の説明」について、30%前後の保護者から、さらなる保護者との連携・交流を求める声が聞かれました。全クラス合同の懇談会や親子遠足を実施し、運動会や生活発表会では保護者の協力を得る機会などがありますが、より保護者同士の横のつながりを持てる機会を作ることや、より保護者にも主体的に活動にかかわってもらい園運営等について保護者にも一緒に考えてもらう仕組みを検討してみたいかがでしょうか。より保護者との連携を深め共に歩む協力体制となることを期待します。



評価機関による評価 もみじ保育園



評価領域

3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある
利用者本人の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「命のリレーをサポートする」という法人の理念を掲げ、子ども達が、一生涯を、たくましく、健康に、明るく生き抜く為の基本的な生活習慣と知恵を身につけさせることを基本としている。また、「あいさつできる子 元気な子(規律) なんでも食べる子 じょうぶな子(食育) みんな仲良し やさしい子(人間関係)」「生きていく為に必要な知恵(基本的な生活習慣)」を教えることを基本方針としており、「命を守り、育てる」という理念や基本方針は子ども本人を尊重したものとなっている。 ・法人の理念、基本方針について、職員採用時に時間をかけて講義されており、採用後も定期的な職員研修の場で説明している。また、日々の保育においても、理念や基本方針に基づく指導計画となるよう、園長や主任が指導をし、理念に基づいた保育が実践されている。 ・保育計画は、基本的な生活習慣の獲得に向けた指導や食育への取り組み、また園周辺の公園への園外保育・散歩など、基本方針や周囲の環境などを考慮して作成されている。また、朝の延長保育の時間を早める、月曜日に自由保育を取り入れる、週の始まりをスムーズにするなど、保護者の実状を考慮している。 ・保護者には、入園・進級・新クラス説明会などで、「年齢別基本的なしつけ到達目標」などを基に、保育計画を説明している。 ・指導計画は、各年齢の発達段階を踏まえ、年齢ごとに年間指導計画、月間指導計画、週案のほか、基本的な生活習慣の獲得に向けて、「年齢別基本的なしつけ到達目標」が作成されている。 ・できるだけ多くの人達と触れ合う機会をつくり、人との上手な関わり方を身につけるため、幼児クラスは外部講師による体操・スイミング・音楽指導、外国人講師による英語などの特別活動を取り入れている。特別活動においても、外部講師との連携のもとに園の理念・保育目標を踏まえた年齢別の指導計画が作成されている。 ・基本的な生活習慣や言葉づかい、「歯ブラシを口に入れたまま歩かない」などの安全対策などについて子どもにもわかりやすい言葉や動作、マークなどを用いて説明し、指導している。

	<ul style="list-style-type: none"> 生活発表会の劇あそびでは、CDを聞きながら興味を持たせ、子どもに好きな役を選ばせたり、せりふを子ども自身がアドリブで考えたり、また、運動会で行う種目の内容について、子どもの意見を聴くなど子どもの意見や要望を取り入れている。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 入園前には園長が園の説明会を行い、保護者との面談の場を設けている。入園式後には、担当児ごとに担任が面談を行い、子どもの寝かせ方やミルク、哺乳瓶の乳首の種類など、詳細について確認している。面談時の内容については、児童台帳の付記欄に必要事項を記載し、全職員が把握できるようファイリングされている。また、児童票、健康診断書など入園時に提出された書類は子どもや家庭の状況の把握に活用している。 入園説明会で短縮保育の必要性について説明を行っている。短縮保育は、基本的に5日程度を目途に行っているが、保護者の状況により期間については柔軟に対応している。 0,1.2歳児クラスは担当児制を実施しており、0,1.2歳の新入園児の一人ひとりに対して主担当保育者が決まっている。 在園児は進級前の2週間は、旧担任と新しい保育室で過ごすようにしている。新担任のうち、基本的に1名は持ち上がりとしている。また、3歳児クラスから本園に通園する分園の園児も、事前に何回か本園を訪れ一緒に過ごす時間を設けている。 指導計画の評価・見直しは「年齢別基本的しつけ到達目標」を基に行っており、職員会議でクラスごとに報告され、子どもの発達や状況を他クラスの職員も情報を共有している。 保護者の意向は、日々の連絡ノート、利用者からの意見用紙（園の郵便ポストに投函）、行事ごとのアンケート、懇談会などで汲みとっており、クッキングなどの際に保護者の意向も取り入れて指導計画を作成している。
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 保育室やトイレの清掃は毎日行われており、清潔に保たれている。トイレのスリッパや上履きはきちんと揃えられており、保育士自ら子どもに揃えるところを見せている。 保育室は陽光や通風は十分で、換気もこまめに行い、エアコンのほか、扇風機もあって快適な環境が保たれている。 保育士は大きな声をあげずに保育にあたるよう心がけており、保育士同士で大きな声に気づいたときは、クラスごとに話し合ったり、職員会議のときに全体で話し合うようにしている。 沐浴・シャワー設備はこまめに清掃し、清潔に保たれている。 低年齢児の保育室には畳敷きのサークル部屋やサンルームがあるなど、低年齢児には落ち着けるスペースとなっている。 ござやビニールシートの活用などにより食事と睡眠の場を分けるなど機能別の空間を作るよう工夫している。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・0歳児は個別の指導計画があり、さらに個別に「年齢別基本的しつけ到達目標」を作成している。保護者と連絡帳などで毎日やりとりを行い、個別指導計画の作成・見直しをする際は保護者と話し合い、同意を得ている。
- ・1歳児は、「年齢別基本的しつけ到達目標」をもとに指導計画を作成しているが、個別の指導計画は作成されていない。
- ・職員会議で、個々の子どもの様子や「ちょっと気になる子」についても報告し、詳細に記録され、情報を共有している。
- ・「児童票」には、家庭の状況・個々の子どもの状況・園での留意点などが記録されている。「経過記録」には乳児クラスは毎月、幼児クラスは4半期ごとに発達状況が記録されている。
- ・年度の引継ぎは児童票、経過記録などをもとに旧担任から新担任へ申し送りがされている。また、年度末に行われる新年度の会議で、経過を観察している子どもの申し送り事項を報告し、職員が共有できるようにしている。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み





- ・職員会議で、クラスごとに配慮を要する子どもやちょっと気になる子どもについて報告され、職員会議録に記録されている。
- ・配慮が必要な子どもについての配慮点を明確にして、その子どもの関わり方や注意することについて共有を図り、全職員が同じ対応ができるよう配慮している。
- ・障害児や特に配慮が必要な子どもについては、必要に応じて横浜市北部地域療育センター、地域療育センターあおば（平成19年度より）や園医、区福祉保健センターなどと連携が取れる体制になっている。
- ・アレルギー疾患のある子どもについては、保護者に医師の指示書を提出してもらい、保護者、担任、栄養士と連携を図りつつ除去食や代替食をすすめている。
- ・添加物を避けるなど食材にも注意をはらっており、代替食は保護者の分も作って保護者にも食べてもらうなど、保護者と十分に話し合い、納得を得てから除去食・代替食の提供をしている。また、作り方も保護者に伝えて、家での献立の幅が広げられるように援助している。
- ・小麦粉アレルギーの子どもについては、米粉（上新粉）を使用したパンの試作を重ねている。
- ・園周辺はマンションや社宅も増え、帰国子女の子どもや外国籍の子どもが増えているという実態を考慮し、外国人講師による英語を取り入れており、外国人と話をしたり、異文化に触れる機会となっている。

- 6 苦情解決体制



- ・ 玄関入り口には「なんでも相談」のポスターが掲示され、園に対する苦情から意見・要望までなんでも相談できるしくみとなっており、玄関ホールに置かれた意見用紙に書いて園の郵便ポストに投函できるようにしている。第三者委員に申し立てる場合も、同様に園の郵便ポストに投函し、中身を開封せずに園から第三者委員に郵送するというシステムになっている。
- ・ 生活発表会、運動会などの行事の後は、「感想用紙」に感想や要望を記入してもらい、今後の保育に活かすようにしている。
- ・ 保護者の悩みを聴く専門相談員（カウンセラー）が配置されており、定期的に園を訪問し、保護者に声かけをしている。子どもの相談だけでなく、保護者自身の相談にもものっており、園に直接言いにくいことを言えるしくみとなっている。
- ・ 園単独で解決困難な場合には、青葉区福祉保健センターなどの担当者とすぐに連絡が取れる体制ができている。
- ・ 保護者から要望や苦情があった場合にはすみやかに解決策を検討し、職員会議で苦情の内容や具体的な解決策について共有し解決策については、掲示をするなどの対応が取られている。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容【遊び】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの年齢と発達に合わせて種類も数も十分な玩具が選ばれ、乳児クラスではプラスチックケースを利用した「形合わせ」など手軽で安全な手作りおもちゃが用意されている。 ・週の始めである月曜日は進んで登園できるように「自由保育」を実施し、1日たっぷり遊びこめる時間を確保している。 ・天候や行事などに合わせた柔軟な指導計画、自由保育や設定保育、外部専門講師による「音楽＝リトミック」「体力作り体操」「英語で遊ぶ」「スイミング」などの特別活動を組み合わせることで1日の保育にメリハリを付け、子どもが好きな遊びに集中できる場を確保している。 ・保育室は機能に合わせ、ござやシートを活用しコーナーを設置したり、アコーデオンカーテンの開閉や保育室の移動、椅子や机の出し入れ等、工夫行い、空間を有効に活用するように努めている。 ・雑紙や牛乳パックなど様々な素材が常備しており、それらを材料として、思う存分絵や文字を書くことができるほか子どもの自由な発想によりいろいろな遊びを生み出している。 ・晴れた日には園外へ散歩に出て、近隣の公園で拾ってきた落ち葉・どんぐりなどを制作の材料にしたり、勤労感謝の日には社会見学として地域の青葉警察署を訪問し、年長組の園児たちが日ごろ地域の安全と子どもたちの「命」を守ってくれていることへ感謝の気持ちを表している。 ・園では「基本的生活習慣のしつけ」に沿って指導計画を立てている。保育士は叱ったり大声を出すことなく、多くの歌やピアノにより子どもを惹き付け、けじめを促し、生活のリズムを作っている。また、多くの言葉かけと褒める保育によって良い習慣が身につくように図っているが、叱るときには子どもを抱っこして距離を縮め、小さい子どもにもスキンシップを図りながら、してはいけないことをわかりやすい動作や言葉で伝えている。
<p>- 1 保育内容【生活】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児の授乳にあたっては、欲しがるときに抱っこして与え、保育室のボードに個別の授乳時間がわかる表が貼ってあり保育士同士や保護者との連携に役立っている。 ・「何でも食べる子 丈夫な子」を基本方針とし、「いっぱい遊んでおいしい給食」という生活のリズムを大切にしている。生活習慣病予防のためおかずは定量盛り付けでご飯・味噌汁はおかわり自由にしており、繰り返しのメニューにし、丈夫な体を作るため何でも食べられるように褒めながら促している。 ・離乳食では一人ひとりのペースで口に運び、子ども自らの意欲を

大切にしている。

- ・給食時は当番活動で役割を担い、父母への感謝の気持ちで手を合わせることを教え、保育士は手本となって食事の基本的マナーを教えることを「食育」の一環としている。
- ・月曜日は「自由保育」を実施し、たっぷり遊びこめる時間を確保するために給食は個々のペースで食卓につくことができるバイキング形式とし、食べやすいメニューを用意している。
- ・園では安全・安心な食事を心がけ、旬の国産食材を取り入れ、塩分を控えめにしている。水分補給も重要と考え、いつでも子どもが飲みたいときに飲めるよう保育室にお茶を用意し、また、産地指定の100%ジュースを提供している。
- ・季節の伝承行事の際は行事にちなんだメニューや見た目も楽しい献立にし、手作りおやつを提供している。
- ・園で使用している食器は、安全で安心できることを重視し、子どもの手に合った形状と重さなど食育用の食器としてこだわったオリジナルで、底にクラスの動物の絵が入っている。
- ・栄養士は毎日給食時の保育室を覗いては園長やチーフと協力して仕入れから献立づくり、盛り付け等工夫し、前歯で「食いちぎる」指導のために、大き目の鶏肉を使ったから揚げを提供するなど食育に生かしている。
- ・給食（離乳食）の献立予定表や食育ニュースを配布し、栄養士からレシピやさまざまな食への情報を発信している。
- ・おやつ終了時に正面玄関前に給食のサンプルを展示することで、降園時、親子の会話の材料になっている。
- ・保育士は寝ている乳児全員が見える位置に座り、SIDS（乳幼児突然死症候群）防止のために寝付いたら仰向けにさせるようにしている。
- ・午睡時にはカーテンを引き、安心して入眠できるようにしている。眠れない子どもを抱っこしたり、背中をさすって入眠を促し、絵本を読み聞かせたり、音楽を流すなどで気持ちの安定を図り、静かに休息するよう働きかけている。
- ・園内ではレンタルの布オムツを使用し、オムツカバーを貸し出している。トイレ内に排泄チェック表があり、保育士間で申し送ると共に連絡帳で保護者へも伝えている。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理〔健康管理〕






- ・内科健診を年2回、歯科健診を年1回実施し、「児童健康診断ファイル」、「歯科健康診査票」に記載している。
- ・入園・進級時に児童台帳と共にかかりつけ医の健康診断書を提出してもらい、既往症等の情報は児童票に記載している。
- ・「喘息マニュアル」があり、薬の使用制限が詳細に記載され、新聞の切抜きなど最新の情報が蓄積されている。
- ・園では原則的に与薬は受けていないが、特に必要な場合には「与薬依頼書」を提出してもらい対応している。
また、家庭で薬の服用があった場合も、保護者から申告してもらっている。
- ・食後の歯磨きは歯の生え初めるころから開始し、3歳児以上はブラッシング指導や仕上げ磨きをし、クラス担任は一緒に行いお手本を見せると共に、赤染めをすることで歯磨きの大切さを子どもに指導している。
- ・「感染症対応マニュアル」があり「登園停止基準の提示」が、「入園・進級の手引き」に明記され、毎年入園説明会や進級時に保護者へ配布、周知している。
- ・発症後の対応は「学校伝染病の場合」「食中毒の場合」等ケース別に分かりやすくフローチャートにしている。各クラスと職員室に設置され、いつでも閲覧できる。
- ・「看護研修」として感染症に関する研修があり、ノロウイルス対策などは即時マニュアルを作成し、各保育室に嘔吐物処理用具のセットを設置して職員会議で実践トレーニングを実施するなど対応策を行っている。
- ・保育中に感染症が発症したり、疑われたりする場合には、即時保護者に連絡しお迎えを要請し、迎えが来るまで隔離して保護している。他の保護者には正面玄関のボードに貼り出して周知している。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理〔衛生管理〕





- ・法人共通の「衛生管理マニュアル」があり、調理室の衛生管理について8項目を定めている。
- ・清掃については始業前、給食前、午睡時、おやつ時、降園後などに保育士がこまめに掃き掃除や拭き掃除をしており、道具の置き場や使い勝手などを工夫している。
- ・玩具の消毒は種類ごとに定期的実施しており、乳児室の消毒は手の届く範囲を毎日逆性石鹼で拭いている。
- ・歯ブラシ・コップは毎日持ち帰り、布団と布団カバーは毎週持ち帰りとし清潔保持に配慮しており、園でも天気の良い日に天日干しにしている。




	<ul style="list-style-type: none"> ・調乳室ではエアータオルを使用し、トイレや手洗い場には手指消毒液が置いてあり清潔に配慮している。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理〔安全管理〕</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「けが・事故対応マニュアル」「園児安全についてのマニュアル」「不審者対応マニュアル」等マニュアル類が整備され、職員室と保育室に設置され、研修や職員会議で周知され定期的に行われる避難訓練などで確認されている。 ・0,1,2 歳児の乳児には災害用に、厚手の靴下を用意して園に常備している。職員も厚底のナースシューズを着用して被災防止に配慮している。 ・職員室のドアに「園内での事故(ケガ)発生時の対応フロー」「青葉区保育園緊急連絡網」「救急車の呼び方」等が掲示しており、すぐ対応できる体制になっている。 ・「事業事故」「受傷事故」報告書があり、職員会議やチーフ会議で原因を検証し改善策を話し合い再発防止に繋げている。 ・廊下にはヘルメットを常設している。「園内の避難経路図」は見取り図の中に「出入口ドアはさみ」や「ベッド近く死角」など、想定される危険箇所が詳細に書き込まれている。 ・職員が横浜市安全管理局認定の「応急手当普及員」の資格を持ち、グループ4園で「救急対応強化研修」を実施している。 ・毎月の避難消火訓練では、夕方に保護者参加の訓練も行っている。毎年10月には総合防災訓練を実施し、消防士訪問の実施記録がある。 ・避難場所は緊急度に応じて決め、園庭に防災備蓄庫を設置し、調理室でも常に30キログラムの米を余分に備蓄している。 ・不審者侵入の対応策として、正門のオートロックシステム、各クラスに防犯ブザーの設置、幼児担当者のホイッスル携帯、園長室にさすまたの設置などが講じられている。 ・来園者はノートに名前と来園時刻を記入、顔写真入りのホルダー(名札)着用、送迎者の確認を徹底している。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・やってはいけないことは年齢に合わせ伝え、叱る時は距離を縮めてスキンシップを図りながら説明し、頑張ったことなどは大いに褒めることにしている。 ・保育士は「予知・予測」の実践として子どもをよく観察しており、子どもの声に耳を澄まし、受け入れやすい言葉で多くの声かけをしている。 ・「守秘義務マニュアル」や「個人情報保護方針」があり、就業規則の定めにしたがって遵守事項が定められており、入職時や外部研修、職員会議等で全職員に周知している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・肖像権保護や保管方法等が決められ、書類は園外持ち出し禁止、事務処理は職員室内で、使用する PC も指定されている。 ・虐待の早期発見のために視診を重要視し、保護者の声のトーンにまで細かく注意を払い、小さなサインも見逃さないようにしている。また、職員全員がいつでも意識して相談しやすい雰囲気を作り、子どもへの虐待を予防している。 ・園の方針として、性差については生まれ持つ体の違いを認め、「命のリレー」としての協力的な役割を伝えるためにそれぞれの力を発揮してもらいたいと考えている。 ・日々の保育の中で、無意識に先入観による役割分業意識を植え付けるような働きかけがないか等、気づいたことを午睡時に話し合ったり、園長、チーフが気づいたことを、職員会議でロールプレイングやシュミレーションを通してチェック・改善する仕組みを作っている。
<p>- 4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の理念や方針を玄関や各クラス、調理室などに掲示し、園だよりや法人の「会報・博愛」、4園合同のパンフレットなどに掲載して周知している。 ・入園説明会や新クラス説明会、懇談会や運動会・もちつき・生活発表会などの大きな行事を通して、また日々の保育を通して園の方針の周知・理解を図っている。 ・0,1,2 歳児には連絡帳、3 歳児以上には連絡事項の記載ができるシールノートや「連絡票」で保護者と情報交換している。 ・入園・進級後 6 月頃に個人面談を行っている。 ・「何でも相談」を随時受け付けており、相談用紙と封筒が用意されている。 ・専門相談員（カウンセラー）を配置しており、月に 1 回園を訪問しては保護者に声をかけている。また、「もみじ保育園グループファミリー健康相談室」が設置されている。 ・遠足などの後には、「速報」として当日の写真を玄関のボードに貼り出し、ホットな情報を提供している。 ・年に 1 回 4 園合同で「生活発表会」を催し、保護者に日ごろの子どもの様子と成長を見てもらっている。 ・行事の後には必ず保護者からのアンケート（感想用紙）をとっている。保護者の要望により親子遠足が実施されるなど、保護者の声を反映させている。 ・保育参観の際は、クラスごとに時間をずらしたり、子どもから直接保護者が見えないように目隠しするなど工夫し、日ごろと同じ子どもの様子を見ることができるようになっている。




- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・かつて保護者に保護者会発足の意向調査をしたところ、「忙しい」「負担が少ないほうが良い」等の声が多く、また園の方針のできる限り保護者が子どもとかかわる時間を持って欲しいという願いから、保護者会組織は現在作っていない。・保護者同士のコミュニケーションの場として懇談会を開き、フリートークの時間を設けている。 |
|--|---|



評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放などで地域住民の悩みや要望を聞いたり、夕方の迎え時間に、駐車のパトロールを行う際、地域の住民から話を聞く機会がある。 ・地域住民に対しては定期的な育児相談を通して子育て支援ニーズの把握をするまでには至っていないことが惜しまれる。 ・一時保育、緊急保育の受け入れのほか、交流保育（園内探検、園庭遊び、親子ふれあいまつりに参加など）、園庭開放（月に2回）が行われている。 ・子育て講座では、リトミックあそびや生活の歌、離乳食講座、親子体操などが実施されている。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な育児相談は行っていないが、電話による相談も受け付けており、美しが丘地域ケアプラザ（5 駅ほど離れた地域）で実施している子育て講座「もみじのおてて」の開催時に育児相談を行っている。 ・区福祉保健センター、北部児童相談所、横浜市北部地域療育センターなど、必要な関係機関や地域団体などの連絡先や業務分担、担当者名前を明記したリストが作成されている。 ・関係機関との連携の担当者は園長で、福祉保健センターなどとの担当者とすぐに連絡が取れるようになっている。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会やもちつきなどの行事の際には、周辺住宅にポスティングやポスター掲示などをし、地域住民の参加を呼びかけている。 ・中学校の職業体験の一環として、中学校に出向き、「保育園とは」について講演を行ったり、地域の福祉の行事で玩具を貸し出して、遊ぶコーナーを設置したりしている。 ・お泊り保育や生活発表会のときに、児童野外活動センターの「こどもの杜」を利用したり、遠足で「こどもの国」に行っている。 ・卒園を控えた5歳児が小学校を訪問したり、社会見学として、青葉警察署に勤労感謝訪問を行っている。地域の福祉の行事に毎年園児の作品を展示している
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレットを作成し、見学者に配布したり、「会報・博愛」を関係機関に配布をしている。 ・社会見学で、青葉警察署を訪問したときに地域のタウン誌の取材に対応したり、NHKの「英語で遊ぼう」のキャラクターが園に来て、園児と遊んだりしている。 ・園の利用やサービス内容についての問い合わせに対しては、常時対応できる体制を整えている。 ・見学は随時可能で、見学の際は園児と一緒に遊んだり、玩具を用意して見学者が話をきちんと聞けるように配慮をしている。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや実習生の受け入れにあたっては、法人で作成している施設パンフレットなどを配布し、あらかじめ園の方針や利用者への配慮などを説明している。 ・ボランティアや実習生の受け入れの担当者は主任で、受け入れ時の記録が作成されている。 ・中学校の職場体験や青葉区社会福祉協議会の「夏の体験学習」の受け入れを積極的に行っている。また、近隣の高齢者が、行事のときに来園し、手品をしてくれるなどの交流がある。 ・実習生を積極的に受け入れ、看護学生の実習も受け入れている。 ・実習生の要望を聞いて、幼児クラス・乳児クラスで部分実習や責任実習（全日実習）を取り入れたプログラムを策定し、より効果的な実習となるよう工夫しており、昼食時や午睡時、実習終了時もミーティングを行っている。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年事業計画の中で、「新人研修」「社会人&教育係り研修」「法人内宿泊研修」を実施しており、職員は法人で一括して採用試験を実施し、現在バランスの良い人材構成になっている。 ・保育環境の第一は保育士の人的環境にあると考え、新入社員にはマンツーマンで「教育係り」が付き「教育係り」には「サポート係り」が付くなど3年間のフォロー体制がある。園長の下にはチーフ、副チーフ、チーフ補佐など段階的な指導体制を整備している。 ・職員・非常勤の区別なく研修に参加でき、法人内4園が同じ理念の下で保育が実践されるよう合同会議などで相互に連携しあって次世代育成を視野に入れた指導をしている。 ・半期毎に「職務に関する申告書」を提出してもらい、仕事の自己評価と見直しを行っている。経験やスキル、勤務年数など考慮して、人員配置や研修計画、給与体系に反映し、それぞれの家庭状況に応じて労務管理にも細やかな配慮をしている。 ・非常勤職員は都合によって出られないこともあるが、必要な研修を欠席した場合は、後日資料を配布したり、再度研修を設けたり、クラスリーダーからフォローを受けることもある。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例職員会議、クラス会議、食育会議、4園チーフ会議、連絡会議、保育会議等が実施され、4園が同じ理念の下で保育実践されているか検証し、共通認識を持つよう図っている。 ・毎月の職員会議ではチーフが「今職員に何が必要か」検討して課題を設定し、シミュレーションやロールプレイングを通して職員のスキルの向上と均一化を図っている。 ・外部専門講師による「音楽＝リトミック」「体操」「英語」などの特別活動の際、保育士も同席して指導補助をしながら実地研修としている。同体操講師による保育士のための「体操補助法」講習後、子どもの小さなケガが減少したとの報告もある。
<p>- 3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・半期毎に「職務に関する申告書」を提出して、自分の仕事に対する評価と見直しを行っている。園長は申告書を基に経験年数やスキル、適性、希望を考慮し、職員給与規定に反映すると共に、翌年の人員配置の指標としているが、役割や期待水準などが明文化されるまでには至っていない。 ・保護者の声も取り入れ、職員からの提案を実現化し、ケガなどの際により分かりやすく伝達できる統一した「連絡票」の様式を作成することにより業務改善の一つとした。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国社会福祉協議会の「全国保育士会倫理綱領」や就業規則などが職員室にあり、いつでも確認できる。入職時の研修の中でも、職務遂行の心がまえや業務規則についての説明をしている。 ・事業報告書・事業計画書などが職員に配布され、職員会議で説明されている。理事長からも、経営上、運営上の情報について、随時説明がされている。 ・園児の製作や手作りおもちゃ、保育室内の整理には、牛乳パック、ペットボトルなどを利用したり、オムツは布オムツを使用するなど、日常のリサイクルやゴミの減量化をしているものの、環境配慮の考え方が施設の方針や目標の中に位置づけられるまでには至っていないことが惜しまれる。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念、基本方針は、目にふれやすい場所に掲示され、パンフレットや会報にも明記されており、全職員に配布している。 ・採用時には新採用内定者研修会で、採用後は定期的な職員研修の場で理念や方針を説明している。また、日々の保育においても、指導計画立案時には理念や基本方針に基づく計画となるよう、園長や主任は指導をしている。 ・半期毎の「職務に関する申告」でも、文書によって理念や保育方針についての理解を確認し、その後、面談を行っている。 ・延長保育時間の改定については、試行期間も設け、会議を経て決定をし、保護者にも説明をしている。分園が開園するときは、区での説明があったほか、園でも、進級、新クラス説明会などで園長・主任や担任などから事前に説明をしている。 ・主任は、スーパーバイズ研修などの外部研修に参加をしている。また、法人4園のチーフ会議、連絡会議などに出席し、保育内容について検討をしたり、他園の情報を聞いている。 ・主任は、随時保育現場を巡廻しており、個々の子どもの状況や職員の業務状況を把握しており、個々の職員からの相談に応じたり、助言をしている。 ・保護者から面談の希望があった時や、職員の体調によっては柔軟に勤務体制を変更したり、子育て中の職員の勤務体制を考慮するなど、職員が心身ともに健康な状態で仕事に取り組めるよう配慮している。

- 3 効率的な運営



- ・理事長は必ず毎月の定例職員会議に出席し、事業運営に影響のある情報は理事長から得るしくみとなっている。
- ・チーフ会議や連絡会議で導き出された課題や方針については、職員に伝達され、話しあっている。
- ・福祉を取り巻く現状を踏まえ、今後必要とされる保育に向けて、課題設定をされた中長期計画が法人として策定されている。
- ・園長は、後継者育成については常に念頭に入れており、施設運営について少しずつ把握してもらうよう、連絡会議にチーフを出席させている。また、チーフ会議に、副チーフ・副チーフ補佐を出席させ、チーフの仕事を副チーフなどにも分担させるようにしている。新人保育士の教育担当として、経験2～3年目の保育士が担い、新人教育担当者のための研修に参加している。

家族アンケート取りまとめシートもみじ保育園

結果の特徴

【調査対象】

もみじ保育園の全利用（園児）136名に対する保護者112家族にアンケートを実施した。

【調査方法】

まず、事前にもみじ保育園と評価機関の連名のアンケート依頼文を連絡帳に挟み込んでもらい、その2~3日後にアンケートを依頼文と同じ方法で手渡してもらった。アンケートは約2週間の回答期間（平成19年2月16日~3月6日）を設け、直接評価機関に返送してもらった。

【回答があった利用者及び回答者の概要】

利用者総数 / 136名
 調査対象総数 / 112家族・保護者
 有効回答数 / 62通
 保護者(世帯)総数に対する回答者割合(%) / 55.4%

【回答があった利用者の内訳】

回答者のクラス	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
	12.9%	16.1%	17.7%	19.4%	21.0%	12.9%	0.0%

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になる。)

【利用者家族アンケート全体のコメント】

「総合の満足度」では、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が95.1%になり、個別の意見や要望はあっても全体として満足度が高いことがうかがわれた。

項目別では「保育園生活を楽しんでいるか」(「満足」のみ66.1%、「満足」+「どちらかといえば満足」91.9%)

「体調への気配り」(69.4%、92.0%)などで積極的な満足である「満足」のみでも65%を超える高い満足度となり、「子どもが毎日楽しく通っていることが、なにより満足している証拠」などの声も聞かれた。また、「お子さんが大切にされているか」(58.1%、95.1%)でもプラスの回答が95%を超えた。

「給食を楽しんでいるか」では、「満足」のみで69.4%、「どちらかといえば満足」も合わせると98.4%となり、「どちらかといえば不満」や「不満」などマイナスの回答がゼロであったことから、バイキング形式や見た目にも工夫をこらした行事食など子どもの意欲や楽しい雰囲気や大切にされた食事への取り組みなどに保護者は満足している様子がうかがえた。個別の記述でも「給食がすごく良い」などの声が聞かれた。

さらに、「成長に合わせたおむつはずしへの取り組み」でも(「満足」のみ67.7%、「満足」+「どちらかといえば満足」91.9%)となり高い満足度となった。布オムツの利用や個々に対応したトイレトレーニングが保護者に支持されていることがうかがわれた。

一方で「保護者懇談会や個別面談など話し合いの機会」や「送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明」、「不満や要望を気軽に言えるか」、「不満や要望への対応」などで「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた回答が30%を超え、保護者が更なる説明や連携を求めている様子がうかがえた。個別の記述でも、「懇談会をクラス別にしてほしい」などの声が複数聞かれた。

また、「園舎、園庭などの施設」、「不審者侵入への備え」でも「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた回答がそれぞれ33.9%、25.9%となり、「園庭や園舎が狭い」などの意見が聞かれた。

調査結果

保育園の基本理念や基本方針について

(%は小数第1位までの表示とし、合計の小数第1位を四捨五入すると100%にな

あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか。	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
(人)	8	29	12	11	2	0
(%)	12.9%	46.8%	19.4%	17.7%	3.2%	0.0%



あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。	共感できる	まあ共感できる	どちらともいえない	あまり共感できない	共感できない	無回答
	24	12	1	0	0	0
	64.9%	32.4%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%

保育園のサービス内容について

問2 入園する時の状況について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	28	19	5	1	9	0
	45.2%	30.6%	8.1%	1.6%	14.5%	0.0%
	その他：・見学していない(8件) ・普通(どちらかといえば満足に) ・良く知らない					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	26	22	8	2	4	0
	41.9%	35.5%	12.9%	3.2%	6.5%	0.0%
	その他：・入園が決定されるのが遅いので説明会も遅い ・普通 ・急に決めたので分からない ・見学していないので分からない ・兄弟がいるので分かっていた					

入園時の面接については	29	23	4	0	5	1
	46.8%	37.1%	6.5%	0.0%	8.1%	1.6%
	その他：・覚えていない(2件) ・面接していない ・見学していないので分からない ・役所の人とした					
お子さんの様子や育成歴などを聞く 対応には	35	21	5	0	1	0
	56.5%	33.9%	8.1%	0.0%	1.6%	0.0%
	その他：・見学していないので分からない					
園の目標や方針についての説明には	17	28	9	1	5	2
	27.4%	45.2%	14.5%	1.6%	8.1%	3.2%
	その他：・大人の目標のような感じがする ・覚えていない(2件) ・見学していないので分からない					
保育園での1日の過ごし方についての 説明には	25	26	7	1	3	0
	40.3%	41.9%	11.3%	1.6%	4.8%	0.0%
	その他：・覚えていない(2件) ・見学していないので分からない					
入園後に食い違いがなかったかなど も含め、費用やきまりに関する説明 について	20	30	10	0	1	1
	32.3%	48.4%	16.1%	0.0%	1.6%	1.6%
	その他：・保育料以外の費用が思っていたよりは多かった ・見学していないので分からない					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	26	27	7	0	2	0
	41.9%	43.5%	11.3%	0.0%	3.2%	0.0%
	その他：・情報は伝えてもらっているが両面づりにするなど紙を節約すると なおよいと思う ・詳細説明をもう少し早くして欲しい(どちらかといえば不満に)					

年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	11	35	12	1	3	0
	17.7%	56.5%	19.4%	1.6%	4.8%	0.0%
	その他：・活かされているが過剰な部分も見受けられる					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
園の遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	26	28	3	3	2	0
	41.9%	45.2%	4.8%	4.8%	3.2%	0.0%
	その他：・外遊びをもっと増やしてほしい(3件) ・さらに幼児主体の自由な時間割、園庭遊びを充実させてほしい ・良く分からない					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	23	28	5	2	4	0
	37.1%	45.2%	8.1%	3.2%	6.5%	0.0%
	その他：・だいぶ古くなってきていると思う。一方、紙芝居など昔のものがあって良い面もある ・本が古い。良い絵本を置いてほしい(どちらかといえば不満に) ・絵本を充実させてほしい ・家庭にあるような遊具や知育玩具が多い気がする(不満に) ・良く知らない(2件)					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	20	30	7	2	3	0
	32.3%	48.4%	11.3%	3.2%	4.8%	0.0%
	その他：・芋掘りなど自然に触れる園外行事を増やしてほしい。 ・もっと土や泥に触れる遊びや草花遊びを取り入れてほしい(どちらかといえば不満に) ・どの程度実施されているか不明 ・まだやったことがない					
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	26	27	6	2	1	0
	41.9%	43.5%	9.7%	3.2%	1.6%	0.0%
	その他：・もっと先生も一緒に遊んでほしい ・分からない					

	24	30	5	2	1	0
	38.7%	48.4%	8.1%	3.2%	1.6%	0.0%
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	その他：・もう少し外遊びや長距離の散歩をしてほしい(どちらかといえば満足に) ・外遊びをもっとしてほしい。園庭にぶらんこやうんていがほしい(2件) ・担任から説明がないので分からない					

「生活」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食のメニューの充実については	36	19	3	0	4	0
	58.1%	30.6%	4.8%	0.0%	6.5%	0.0%
	その他：・食事は良いがデザートがないのでかわいそう ・給食には満足しているがおやつが多い ・手作りおやつをもっと増やしてほしい ・土曜のメニューが軽すぎる					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	43	18	0	0	1	0
	69.4%	29.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	25	27	7	0	3	0
	40.3%	43.5%	11.3%	0.0%	4.8%	0.0%
	その他：・昼寝をしない時は読書をさせてほしい(どちらかといえば不満に) ・分からない(2件)					
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	42	15	3	0	2	0
	67.7%	24.2%	4.8%	0.0%	3.2%	0.0%
	その他：・知らない ・おむつをはずす時期ではない					
お子さんの体調への気配りについては	43	14	1	1	3	0
	69.4%	22.6%	1.6%	1.6%	4.8%	0.0%

保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	32	19	6	3	2	0
	51.6%	30.6%	9.7%	4.8%	3.2%	0.0%
	その他：・対応が良かった(どちらかといえば満足に)					

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
園舎、園庭などの施設については	11	25	14	7	4	1
	17.7%	40.3%	22.6%	11.3%	6.5%	1.6%
	その他：・園庭が狭い3件(どちらかといえば不満に 2件)(不満に 1件) ・園庭を広くしてほしい(どちらかといえば不満に) ・人数の割に部屋が狭いと感じる ・乳幼児が2Fのため外に出にくい気がする ・少し良くなっています(どちらかといえば満足に) ・狭いが工夫している					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	17	32	7	5	1	0
	27.4%	51.6%	11.3%	8.1%	1.6%	0.0%
	その他：・人数が多い(不満に)					
外部からの不審者侵入に対する備えについては	10	34	12	4	2	0
	16.1%	54.8%	19.4%	6.5%	3.2%	0.0%
	その他：・ICカードを使ったセキュリティーを導入してもらいたい ・もう少し配慮すべき(に) ・つまるところは個人を認識していることだと思う					
衛生管理や感染症対策については	20	36	5	1	0	0
	32.3%	58.1%	8.1%	1.6%	0.0%	0.0%

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	16	22	15	4	4	1
	25.8%	35.5%	24.2%	6.5%	6.5%	1.6%
	その他：・保護者が自由に話し合える場所がもっとほしい(不満に) ・個別面談は年1回ではなく年2回にしてほしい(どちらかといえは不満に) ・もう少し多い方がよい ・普通					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	24	26	10	0	2	0
	38.7%	41.9%	16.1%	0.0%	3.2%	0.0%
	その他：・時間がなく大変な時に特別に対応してもらった(1に) ・掲示などが分かりにくい時がある					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	24	27	8	0	1	2
	38.7%	43.5%	12.9%	0.0%	1.6%	3.2%
	その他：・普通					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	16	21	18	1	5	1
	25.8%	33.9%	29.0%	1.6%	8.1%	1.6%
	その他：・車が長時間止められなく、詳しい様子を聞く事ができないので少し心配 ・普通 ・説明がない時もある					
お子さんのに関する重要な情報の連絡体制については	21	25	12	1	1	2
	33.9%	40.3%	19.4%	1.6%	1.6%	3.2%
	その他：・会社に連絡が入る前に携帯電話に連絡が入っている					

保護者からの相談事への対応には	21	30	7	2	2	0
	33.9%	48.4%	11.3%	3.2%	3.2%	0.0%
	その他：「なんでも相談」の先生が良くしてくれています ・相談しない ・園長先生に直接しないと無理(満足に)					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	24	23	7	5	2	1
	38.7%	37.1%	11.3%	8.1%	3.2%	1.6%
	その他：・遅くなったことがない ・分からない					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	36	23	2	1	0	0
	58.1%	37.1%	3.2%	1.6%	0.0%	0.0%
	その他：・心の成長を見守ってほしい。					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでるかについては	41	16	4	1	0	0
	66.1%	25.8%	6.5%	1.6%	0.0%	0.0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	20	18	0	1	18	5
	32.3%	29.0%	0.0%	1.6%	29.0%	8.1%
	その他：・分からない(15件) ・アレルギーでない(2件)					
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	15	22	14	8	3	0
	24.2%	35.5%	22.6%	12.9%	4.8%	0.0%
	その他：・園長先生には言える。(満足に) ・普通					

不満や要望への対応については	15	25	16	5	1	0
	24.2%	40.3%	25.8%	8.1%	1.6%	0.0%
	その他：・どこまで対応しようと思っているのかもっと伝えてほしい ・園長先生は早急にしてくれた(満足に)					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
総合満足度は	26	33	1	1	1
	41.9%	53.2%	1.6%	1.6%	1.6%

利用者本人調査取りまとめシート(保育)

結果の特徴

調査対象：園児 136 人のうち、園側に予めリストアップしていただいた 10 名(園児の 7.4%)を調査対象とした。〔1 歳児 1 人、2 歳児 2 人、4 歳児 1 人、5 歳児 6 人、〕

項目	回答者年齢	人数	内 訳	園全体の人数
保 育 観 察	0 ~ 2 歳	3 人	男児 1 人・女児 2 人	4 7 人
	3 ~ 4 歳	1 人	男児 1 人	5 9 人
本人聴き取り調査	5 ~ 6 歳	6 人	男児 3 人・女児 3 人	3 0 人

【調査方法】

〈保育観察〉

調査員 2 名が 0~4 歳の 4 名を保育の現場で、施設側から提供された利用者情報シートを参考に遊び・食事・排泄・午睡等の保育状況を観察した。

〈本人聴き取り調査〉

5~6 歳の 6 名を対象に、食事・遊び・排泄等について聴き取り調査を行った。食事については給食を共にしながら、また遊びなどについても活動中の子どもたちの脇で聴き取りを行い、より自然な形での意見聴取に配慮した。

【保育観察の結果】

〈全体のコメント〉

子ども一人ひとりが好きな遊びを選んで集中し、楽しい充実した一日を過ごしていたことがうかがえる。調査日はあいにく雨天で一日室内遊びとなったが、ままごとなどの自由遊びや絵本の読み聞かせ、紙芝居などの集団遊び、ブロックコーナーや制作コーナーなど、遊びを選んで自由に遊べる「コーナー遊び」が設定されており、保育士は古くからある歌や童謡、幼児番組に出てくる曲のリズムに合わせ、子どもを惹き付けながら充実した一日の流れを作っていた。

発達に沿って「年齢別基本的しつけ目標」があり、一日の生活習慣のリズムを大切にしている。保育士は、集団生活の中で危険なこと、社会マナーとしての挨拶など、小さな子どもには歌を通して教え、1 歳児であってもひざに乗せ、「物を投げてはいけない」ことを言い聞かせ、繰り返してしまう子どもには、抱き取って根気良く説明していた。また、言葉の出ない子どもには「　　ちゃん、やりたいの?」「　　だよね」「よかったねえ」「　　ちゃん、おしっこ行きま~す」と、多くの声かけをし、気持ちを汲んで代弁をしたり、大きな声を出したりならず、褒めながら排泄に促したりしている姿が見られた。

子どもを取り巻く環境に心が配られている。オリジナルの食器が発達に合わせて開発・使用されているため、子どもの手にスッポリ収まり、持ちやすくこぼしにくいことや、保育士による手作り遊具や収納道具が多いことなどから、子どもに合わせた環境が工夫（用意）されていることがうかがわれた。

<遊び> 調査日は朝から雨天だったため、予定されていた園庭遊びは室内の設定遊びとなり、クラスによっては外部講師による「音楽」活動が実施されていた。各クラスにはピアノがあり、子どもたちは、童謡・わらべ歌・手遊び歌などを保育士が歌い始めると、楽しそうにリズムに乗って体をゆすり、のびのびと活動する姿が見られた。指遊びに夢中になったり、紙芝居に聞き入っては、生き生きと遊びを楽しんでおり、ブロック遊び、こいのぼりの制作などの「コーナー遊び」でも、それぞれの子どもがやりたいことに熱中し、「すごいねえ。」「カッコいい～」などの保育士の笑顔の賞賛を受けては、さらにはりきって見せに来る様子がみられた。「音楽」は部屋を広げてスペースを作り、雨天でも思う存分走り回り、ピアノに合わせて輪を作ったり、ゲームをしたり存分に体を動かした子どもたちは満足の様子が見られた。流れるように遊びが次々と提案され、園の子どもたちは楽しい充実した一日であったと思われる。

<食事> オリジナル食器は、子どもの手に合うように形や大きさに配慮され、シンプルで温かみのある陶器が使用され、1歳児でもしっかり手に持つことができていた。当日の献立は鶏のから揚げだったが、「大きめの鶏肉を手でつかみ、丈夫な歯で噛み切り、よくかんで食べる」という園のねらいどおり、実においしそうなお顔でしっかり噛んで食べる姿が見られた。

<排泄> 同じクラスでも子どもは発達に応じて、オムツからトレーニングパンツ、パンツといろいろ着用している。保育士は遊びの区切りや、子どもがもぞもぞする様子で声かけし、子どもはトイレの前のオムツ替えマット（風呂マット）に寝転がって気持ちよさそうに交換してもらっている。失敗した場合にも保育士はやさしく見守り、出来るところは子どもに任せ、身の回りのことを自分でやろうとする意欲を大切にしている。例えば、トイレの前にはバスタオルをしいた低い台が用意してあり、子どもたちは頑張っで自分でパンツをはき、見守る保育士にほめてもらおうと、ホッとしたうれしい表情を見せては遊びに戻って行く様子が見られた。

<午睡> 一人ひとりがそれぞれのペースでパジャマに着替え、歯磨きの仕上げを済ませると、ほとんどの子どもは布団に入って横になり、すぐに入眠していた。保育士のひざから離れない子どもは、歌を歌って背中をさすってもらってようやく寝付いていった。CDで優しい曲を流すクラスもあったが、ほとんどのクラスはしばらくすると静かになり、廊下には寝息が聞こえてきた。

[本人聞き取り調査の結果]

（全体のコメント）

回答者は全員、保育園での遊びは「楽しい」と声を揃えている。楽しい遊びの内容については実にさまざまであり、日々多くの遊びが設定され、子ども一人ひとりに遊びこむ時間が与えられていることがうかがえる。

全員が給食の時間を楽しみにしており、「なるべく頑張っておかずを食べて、ご飯・味噌汁のおかわりをしたい」等のコメントも聞かれた。園ではオリジナルの食器を創作・使用しており、すべて食べる

とお皿の底に描かれた自分のクラスの動物の絵が見えるようになっていることも、子どもがうれしそうに教えてくれた。

排泄・清潔の項目とも、先生はやさしく手伝ってくれるが、ほとんどの子どもが「自分で出来る」「自分でやる」と答えており、自分でやろうとする意欲、自立心が育っていることが感じられた。

〔質問項目別の特徴〕

<遊び> 回答者の全員が保育園での遊びは「楽しい」と答えている。回答された遊びはさまざまで、それぞれの子どもが保育園において、お気に入りの遊びを見つけて存分に遊ぶ時間が保証されている様子がうかがわれた。

<食事> 食事の時間は全員の子どもが「楽しみ」と答えている。食育の一環として副食は定量盛り付け、ご飯と味噌汁がおかわり自由になっており、実際、「ご飯と味噌汁これで終了で～す」と声がかかるまで、我先におかわりする様子が見られた。食べられないときは残すことも出来るが、減らしてもらうこともできるので、「頑張ってお食べる」子どもを含めて、全部食べる子どもがほとんどであった。

<排泄> 「行きたいときにトイレに行っていますか」の問いに全員が「行ける」と回答し、そのうち「先生に断っていく」と答えた子どもが半数であった。「ウンチを拭けないとき手伝ってもらえますか」や「おもらし」についても、「先生は手伝ってくれるが、自分ではできる」や良く考えた上で、園では「困ったことはない」等、回答はさまざまで、非該当が半数あった。

<清潔・着替え> 「体をきれいにしてもらえますか」については「きれいにしてくれる」という答えと「自分で着替えるから着替えない」とが半々であった。「出来ることは自分でやる」という園の「年齢別基本的しつけ目標」にそって「自分の身体や身の周りの汚れの後始末をきちんとする」様子がうかがわれた。一方、体調の悪いときの対応やケガ時の対応について、先生は「やさしく面倒を見てくれる」とし「否」の子どもは実際具合が悪くなったことがないからという理由であった。

<権利> ケンカについての保育士の対応では、ほとんどの子どもは「話を聞いてくれる」と答えている。「午睡をしなくても良いか」については「静かにしていること」の判断によって回答が分かれた。また、呼び方については全員が呼び捨てではなく、ちゃん、くんと呼ばれていると回答している。

<職員対応> 「園長先生と遊ぶ」と答えた子どもは若干であったが、実際には園長先生が通りかかると、次々に子ども達から「園長先生～」と声をかける様子が見られた。また、ほとんどの子どもが「他クラスの先生もやさしい」と回答している。その他に、「みんなが言うことを聞かない時は、先生がやさしくない時もある」という意見や、「困ったときは世話をしてくれますか」について「困ったとき」について状況が思い浮かばない様で、考え込んだ子どももいた。

事業者からの意見(コメント)シート

第三者評価を受審するにあたって

第三者評価を受審するには、まず自己評価をしっかりと実施し、自己の姿・あり方を反省し、事業内容・保育に反映してからが理想だと考えていました。しかし、日々刻々と変化する保育現場の対応に追われている状況でした。そんな時に第三者評価の受診の意義や取り組み方の説明を受ける機会を得ました。兼ねてから信頼している機関であった事や第三者評価という言葉さえ耳にしたことのない頃からのつながりのあった方が担当者としておられたのは、受審について躊躇していた所から一步踏み出すきっかけとなりました。

第三者評価の制度の理解はしたものの、現実にはどのように進めるのか、またそれだけでなく多忙を極める職員に快く賛同が得られるのか等、過重労働を押し付け園児に不都合にならなければ良いと思っていました。

第三者評価を受審して

受審にあたり快く受けもらえるという意気込みも聞こえ、早速受診に当たるプロジェクトチームを結成しました。そして自己評価のとりまとめでは『ああ、やっぱり』など再確認できた事や、現在取り組んでいる事を良いものとして共通認識し、継続していける為に明文化しておく必要性を感じました。

今後に向けて

当保育園のスタート以来、遅々とした歩みではありましたが保育に邁進して来ましたが、そして今回初めて第三者からの評価を受ける機会を得ました。結果として得られた良い点は更なる向上を、改善が必要とされる点には柔軟に対応して行き、次回の受審につなげて行きたいと考えました。